

# 令和3年度 都市経済常任委員会行政視察報告書

## 1 参加委員

(委員長) 小川 裕暉 (副委員長) 木山 耕治 (委員) 杉本 啓子 (委員) 藤本 恵祐  
(委員) 山田 悦子 (委員) 岩田 はるみ (委員) 山崎 広子

## 2 視察日時

令和3年12月22日(水)及び令和4年2月8日(火)

## 3 視察先

- 令和3年12月22日 茅ヶ崎駅南口→高砂緑地→雄三通り→サザン通り周辺
- 令和4年2月8日 民俗資料館周辺→市民の森・清水谷特別緑地保全地区→里山公園周辺→行谷→下寺尾官衙遺跡周辺道路→殿山プール→樹木センター(甘沼北根公園)

## 4 視察事項

都市経済常任委員会が政策討議として取り組みを行っている政策提言のテーマ「茅ヶ崎の魅力ある資源を活かしたまちづくり～市民が誇れるみどりと景観の形成へ～」に沿って、茅ヶ崎市の現状を調査

## 5 視察概要

	(担当 小川 裕暉)
視察先選定理由	政策提言のテーマ「茅ヶ崎の魅力ある資源を活かしたまちづくり～市民が誇れるみどりと景観の形成へ～」に沿って、茅ヶ崎市現状の街並み(道路・商店街・公園・みどりについて)を調査するために茅ヶ崎市南部の市街地と茅ヶ崎市北部の自然豊かなエリアを視察することとした。令和3年12月22日は、市街地を徒歩で調査し、令和4年2月8日は自然豊かなエリアについて、マイクロバスを利用して車窓からの景観等も含めて調査することとした。
考 察	①12月22日：茅ヶ崎駅南口エリアについて 高砂緑地については、周辺に図書館・美術館があり、ただ、これらは所管課が異なることで、魅力ある各資源を一体として生かしていない。 また、周辺にはおしゃれなカフェなどのお店も多く、公の資源から民にいかにつなげるのかその連携を考えていくべきである。 南口エリアにおいては、子どもが遊ぶことのできるサイズの公園がないのが、子育て環境という点では課題と思われる。 案内表示などは必要であるが、案内表示や看板があふれているのは景観面では好ましくない。ほとんどの方がスマートフォンなどを活用していることから、QRコードを活用するといった手法をもっと積極的に取り入れていくことが必要だと考える。 南部視察のまとめとして、南口エリアは魅力ある資源がコンパクトにまとまっているが、所管課が異なることによるエリアを一体として有機的に活用できないところに大

きな課題があり、いかにしてその“縦割り行政”を超えて、エリア一体として、民間とも連携してまちづくりができるかが大きな課題であると考えられる。

## ②2月8日：茅ヶ崎市北部エリアについて

里山エリアのみどり・自然環境をいかに守りながら整備を進めるのかが大きな課題であると考えられる。

清水谷特別緑地保全地区については、下水道未整備エリアでもあることから、生活用排水の流れこんでいることが予想され、合併処理浄化槽の普及推進や、保全することの大切さなどを周辺住民や自然環境団体だけでなく広く市民にも周知していくことが必要であると考えられる。

市民の森については、昨今のキャンプブームや子どもが自然の中で遊ぶことのできる貴重な場所として、その利活用をさぐるべきで、泊まることのできる形での活用などで生かしていけるのではないかと考える。

清水谷や市民の森といったこの森に対して、「森林環境譲与税」を活用して財源からもしっかりと守っていく仕組みづくりをしていくべきで、財源の裏付けで持続的に守り続けていく基礎になると考える。

北部は資材置き場が各所にあり、その無機質なフェンスが里山の景観に悪影響を与えている。フェンスの高さや色などその規制を考えていかなければならないと思われる。

茅ヶ崎市歴史文化交流館を整備することから、民俗資料館・旧和田家住宅の周辺の道路を整備して、観光客が楽しんで歴史散策できるような形にすべきであると考えられる。

北部視察のまとめとして、茅ヶ崎北部については、里山景観を生かす形で自然環境を守り、そこにある遺跡など歴史遺産などを回遊して楽しむ形での整備や、子どもたちが里山で思い切り楽しむことができるような整備をしていくべきであると考えられる。

